

2018年12月17日

2018年度 ミャンマー看護研修生 研修報告書

藤田医科大学病院
看護部長 眞野 恵子

1. 研修期間

2018年11月16日（金）～12月14日（金）

土日、祝日を除く

2. 研修生

2名

DaW Yin Yin Phyo 43歳 女性 マンダレー総合病院 脳神経外科病棟 看護長

DaW Nang Mo Kham 29歳 女性 マンダレー総合病院 脳神経外科病棟 看護師

3. 研修内容

詳細なプログラムや研修指導者について、添付資料（2部）参照

4. 研修評価

研修としては、主に脳神経外科領域における看護の見学実習を行った。研修場所は、中央手術室、脳神経外科病棟（A-7N）、NCU、リハビリテーション病棟、放射線科（血管内治療）などの急性期、回復期、慢性期にわたる健康段階に応じた看護を経験できるよう計画した。研修については、見学だけではなく、指導者のサポートにより看護実践ができるような配慮を看護長へ依頼をした。

研修中は、研修する病棟のスタッフで英語通訳ができる看護師が同行するよう配慮を行ったが、通訳が対応できない事もあった。予め、通訳ができない状況を把握していたため、後日、質問があればまとめて対応するようにした。また、スタッフの中には英単語が通じにくいところについては、ミャンマー語の変換アプリを活用してコミュニケーションを図っている様子もみられた。

看護部主催の研修の参加や食事会の招待、昼食を持ち寄った看護師との座談会で異文化の交流を行った。研修には通訳がいない状況ではあったが、出来る範囲で英訳をした資料を作成したことによりおおよその理解をしていた。また、座談会が研修の翌日であった為、日本とミャンマーの死に対する気持ちや準備の違いなどを話し合う機会を持った。また、最終日のセクション見学においては、B-3やER外来などを見学した。研修生は、助産師の資格をもっているため、日本とミャンマーの助産活動の違いなどの質問がたくさん挙がった。ER外来では、患者が搬送された状況を見学した。

全体として意欲的に取り組み、また日本人看護師とそれぞれの国の医療・看護事情について考える機会を持ち、共に学ぶことができた研修であった。

以上

【研修中の様子】

